

2022年7月21日

クラウドサービスにおいて CO₂ 排出量の予測・可視化機能を提供 ～再生可能エネルギーを活用したクラウドサービスで、お客さま・社会の GX を加速、カー ボンニュートラル実現に貢献～

2025年3月28日追記

「カーボンフットプリントダッシュボード」は2025年4月30日をもって新規販売を終了します。また、2025年7月31日をもって提供を終了します。

「カーボンフットプリントシミュレーター」は2025年7月31日をもって提供を終了します。

NTT コミュニケーションズ株式会社（以下 NTT Com）は、「Smart Data Platform^{※1}（以下 SDPF）クラウド/サーバー」において、お客さまが必要とするリソース容量などから CO₂ 排出量を予測するシミュレーション機能を2022年7月29日より、加えて、CO₂ 排出量^{※2}を可視化するダッシュボード機能を2022年9月下旬より開始します。

これによりお客さまは、既存のオンプレミス環境から「SDPF クラウド/サーバー」への移行による CO₂ 排出量削減効果のシミュレーションが可能となるとともに、お客さまのご利用によって排出された CO₂ 排出量をポータル上で確認することが可能となります。

なお、「SDPF クラウド/サーバー」では、100%再生可能エネルギー（以下 再エネ）^{※3}を使用するサービス提供拠点を2021年より順次拡大しています。再エネを活用したクラウドサービスの提供により、お客さまおよび社会全体の Green Transformation（GX）を加速し、カーボンニュートラルの実現に貢献します。

1. 背景

政府がめざす2050年のカーボンニュートラルを実現するため、NTT Comでは、自らの脱炭素化である「Green of ICT」、社会・お客さまの脱炭素化である「Green by ICT」の2つの軸でGXを進めています。

その取り組みの1つとして、「SDPF クラウド/サーバー」の提供拠点における再エネ活用を拡大しており、2022年6月までに5割の拠点のカーボンニュートラルを実現しました。

また、データセンターサービスにおいては、2022年4月よりお客さまのご要望に応じた再エネを選択できる電力メニューを提供^{※4}するなど、社会全体のカーボンニュートラル実現に向けさまざまな取り組みを行っています。

2. 提供内容

NTT コミュニケーションズ株式会社 広報室
NTT Communications Corporation Public Relations Office
〒100-8019 東京都千代田区大手町 2-3-1 大手町プレイスウエストタワー
OTEMACHI PLACE WEST TOWER 2-3-1 Otemachi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8019, Japan
Tel (03)6700-4010 International +81 3 6700 4010

(1) CO₂ 排出量を予測するシミュレーション機能

シミュレーションサイト上でお客さまがご利用予定のリソース容量などの必要情報を入力すると、お客さまが「SDPF クラウド/サーバー」を利用した場合の CO₂ 排出量の予測値および既存のオンプレミス環境から「SDPF クラウド/サーバー」への移行による CO₂ 排出量削減効果をシミュレーションすることができます。

■ 提供開始日

2022 年 7 月 29 日

■ 利用料金

無料

(2) CO₂ 排出量を可視化するダッシュボード機能

「SDPF クラウド/サーバー」をご利用いただいているお客さま向けに提供する機能で、お客さまのご利用によって排出された CO₂ 排出量、ご利用の拠点やメニューごとの内訳、経月の推移をポータル上で確認することが可能となります。

■ 提供開始日

2022 年 9 月下旬（予定）

■ 利用料金

無料

3. 今後について

2023 年度中を目標に、NTT Com が提供する「SDPF クラウド/サーバー」のすべての提供拠点において利用エネルギーを再エネとし、「SDPF クラウド/サーバー」のカーボンニュートラルを実現する予定です。また、「グリーンプログラム」や「グリーンテクノロジー」をはじめとした、カーボンニュートラル実現に資する GX ソリューション^{※5}の提供により、社会全体のカーボンニュートラル実現に貢献していきます。

NTT ドコモ、NTT Com、NTT コムウェアは、新ドコモグループとして法人事業を統合し、新たなブランド「ドコモビジネス」を展開しています。「モバイル・クラウドファースト」で社会・産業にイノベーションを起こし、すべての法人のお客さま・パートナーと「あなたと世界を変えていく。」に挑戦します。



<https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/docomobusiness/>

NTT Com は、事業ビジョン「Re-connect X[®]」にもとづき、お客さまやパートナーとの共創によって、With/After コロナにおける新たな価値を定義し、社会・産業を移動・固定融合サービスやソリューションで「つなぎなおし」、サステナブルな未来の実現に貢献していきます。

Re-connect X

<https://www.ntt.com/about-us/re-connectx.html>

※1：「Smart Data Platform」は、データ利活用に必要な収集・蓄積・管理分析におけるすべての機能を、ICT インフラも含めてワンストップで提供し、データ利活用による DX 実現を加速させるプラットフォームです。詳しくは下記 Web サイトをご覧ください。



<https://www.ntt.com/business/sdpf/>

※2：お客さまが「SDPF クラウド/サーバー」でご利用されているリソース（サーバー、ストレージなど）および弊社データセンター内で消費される電力に基づき、NTT Com 独自の算出方法にて計算した CO₂ 排出量となります。

※3：実質再エネを含みます。NTT アノードエナジー株式会社、その子会社である株式会社エネット（小売電気事業者登録番号：A0009）などが連携し、NTT Com のデータセンターへの電力供給を行い、カーボンニュートラルを実現します。

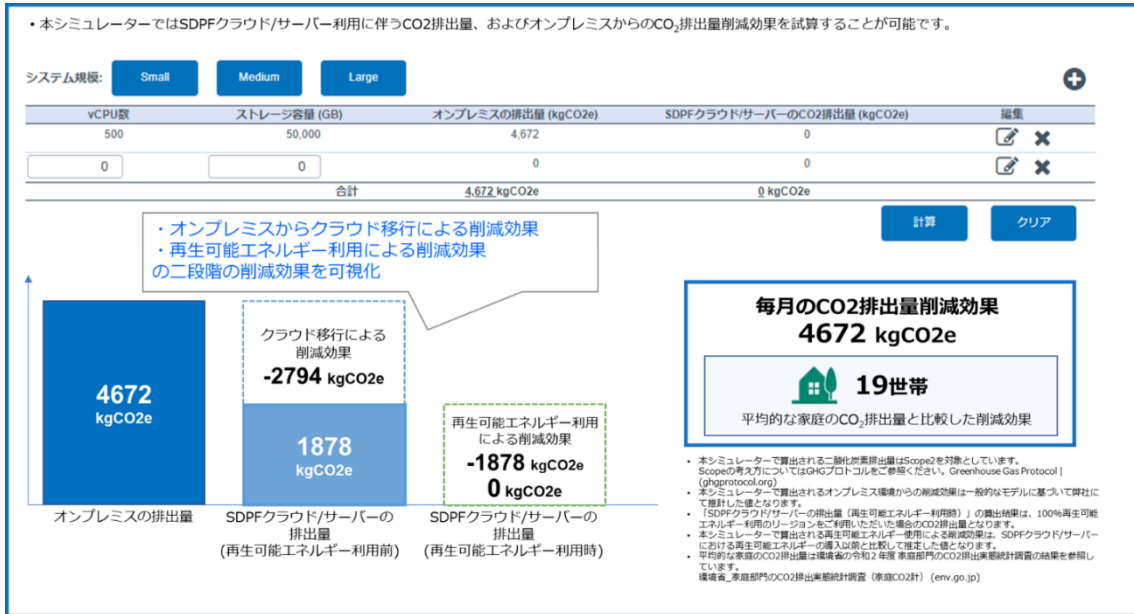
※4：「データセンターにおいて専用発電所を含めた幅広いグリーン電力が選択可能に」（2022年3月28日）
https://www.ntt.com/about-us/press-releases/news/article/2022/0328_2.html

※5：ICT を活用し、産業およびライフスタイルの変革を行い、環境と人が共存した社会を実現するソリューションです。

<https://www.ntt.com/business/solutions/gxesg.html>

【別紙】

(1) CO₂の排出量を予測するシミュレーション機能画面イメージ



(2) CO₂の排出量を可視化するダッシュボード機能画面イメージ

